



石神井川整備に関する事業説明会

豊石橋・新堀橋(歩道橋含む)の架替について

令和5年10月4日(水) 19:00～ 北区立 堀船ふれあい館

令和5年10月5日(木) 19:00～ 北区立 豊島ふれあい館

東京都 第六建設事務所
北 区 土 木 部

本説明会における留意点についてご案内します。

- 本説明会において、「**新堀橋の架替**」と言う場合は、新堀橋及び新堀橋歩道橋両方の架替を意味します。



東京都の河川事業では標高をA. P(エーピー)で表します。隅田川河口付近の平均水位を基準にした高さのことです。

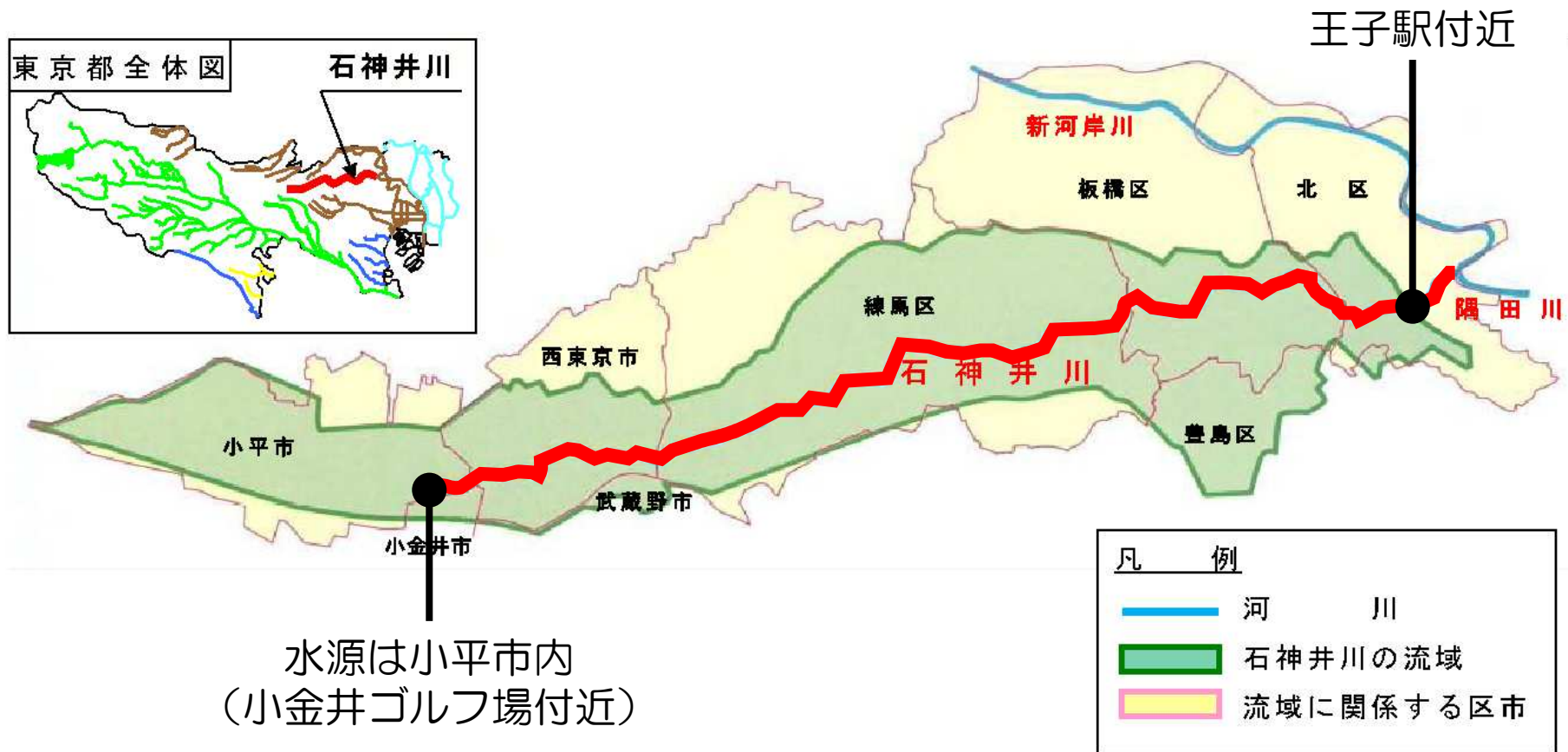
本日、皆様にお伝えしたいこと

1. 石神井川整備事業について
2. 豊石橋、新堀橋の架替がなぜ必要か？
3. 架替方針について
4. 今後の予定について

1. 石神井川整備事業について

流域の概要

- 流域概要
 - 流域面積 73.1 km²
 - 延長 25.2 km



整備目的（溝田橋～隅田川合流点）

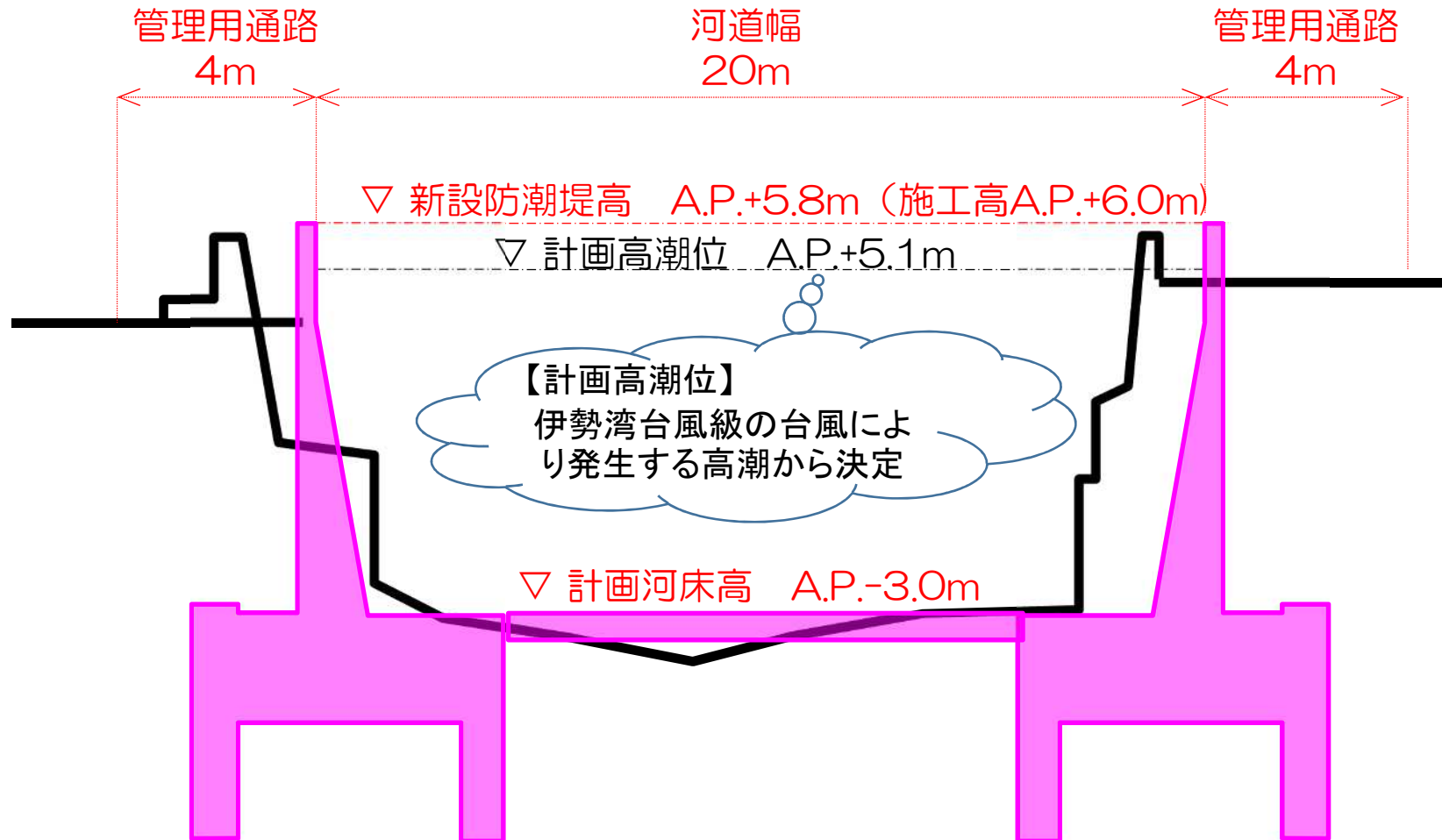
対策内容	対策目的	対策メニュー	備考
高潮対策	昭和34年に発生した伊勢湾台風級の高潮に対応	防潮堤高さ A.P.+5.8m	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化防潮堤の再構築 上流の調節地が完成するまでの暫定措置として施工高A.P.+6.0mを確保
洪水対策	1時間あたり50mmの降雨に対応する河道を整備する。	河道断面の確保	上流の調節地整備等流域対策により流域全体で1時間あたり75mmの降雨に対応
地震対策	今後想定される最大級の地震動に対応	防潮堤の耐震性能の確保	

整備される防潮堤の標準断面図

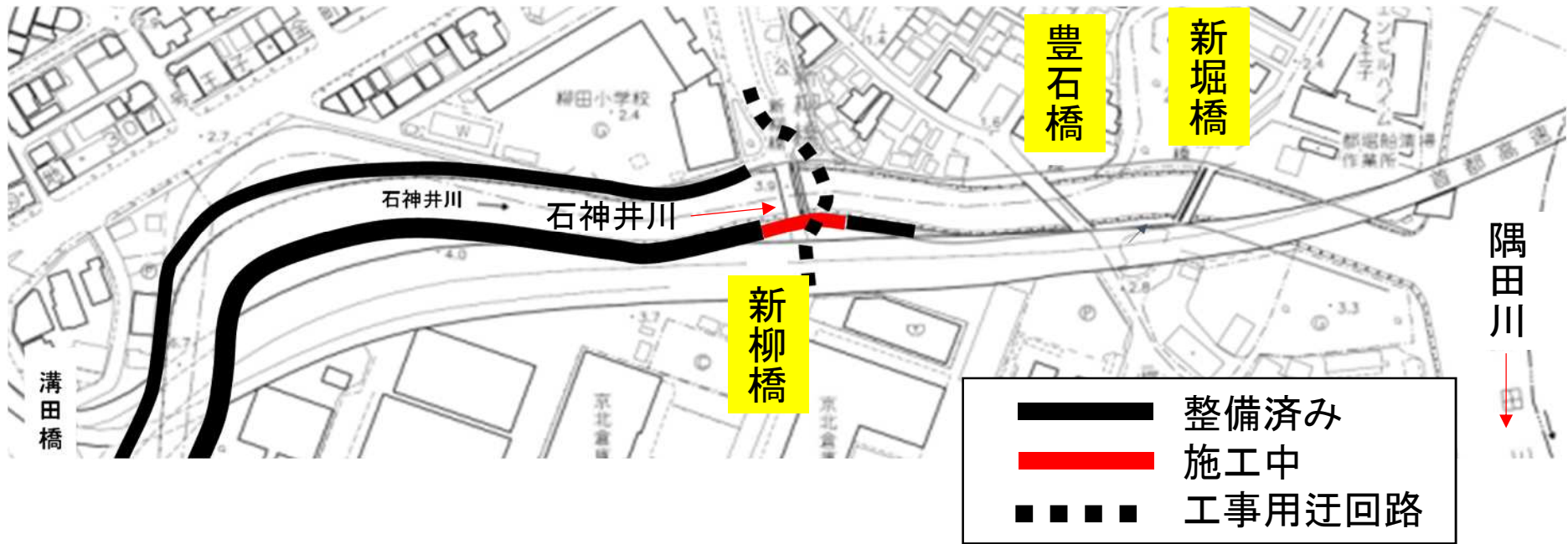
凡例

現況 

整備 



石神井川防潮堤整備状況(令和4年度末時点)

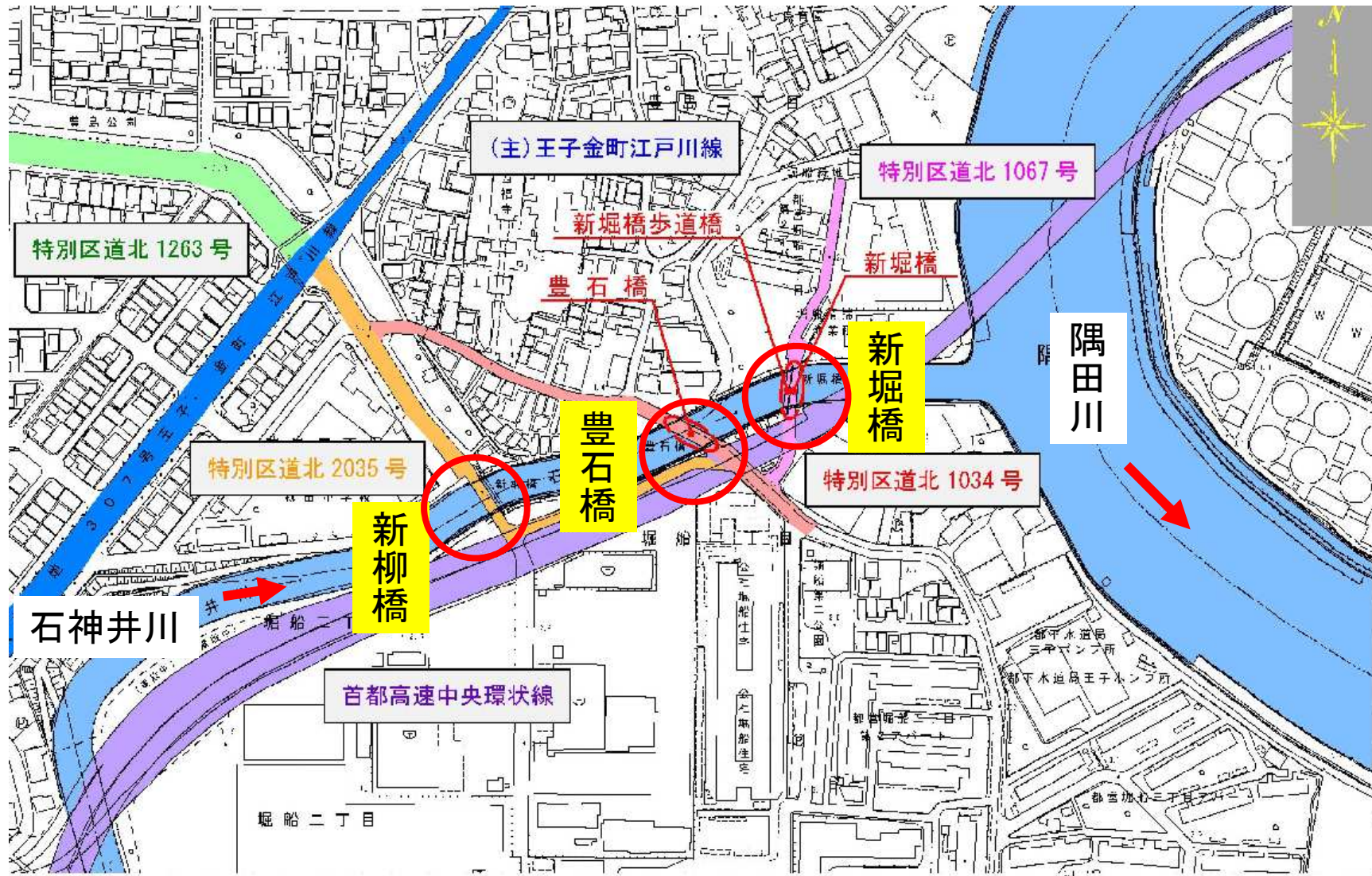


石神井川整備工事（新柳橋上下流右岸）の状況



新柳橋架替に伴う仮橋

2. 豊石橋、新堀橋(歩道橋含む)の 架替がなぜ必要か？



撮影年：昭和20年（1945年）～昭和25年（1950年）



撮影年：昭和36年（1961年）～昭和44年（1969年）



撮影年：昭和49年（1979年）～昭和58年（1983年）



撮影年：昭和62年（1987年）～平成2年（1990年）

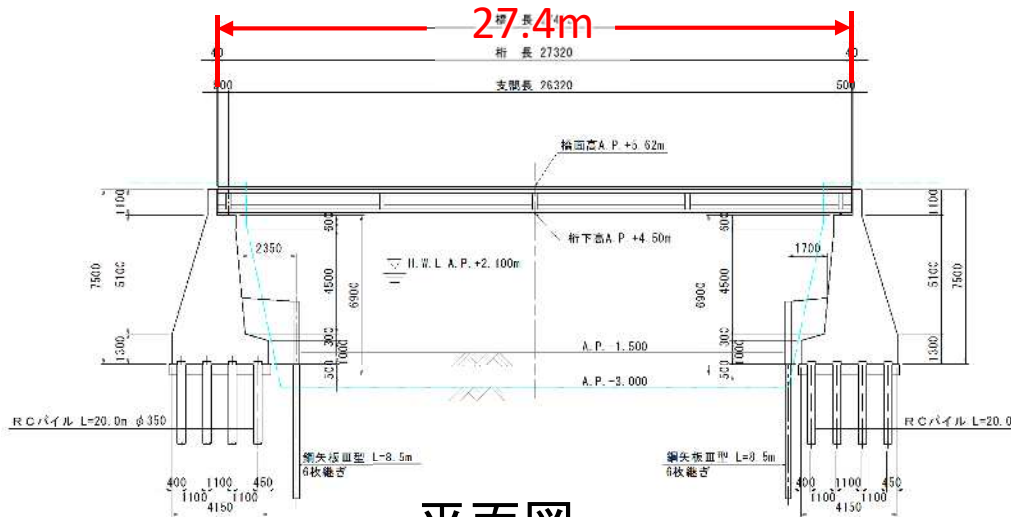


豊石橋

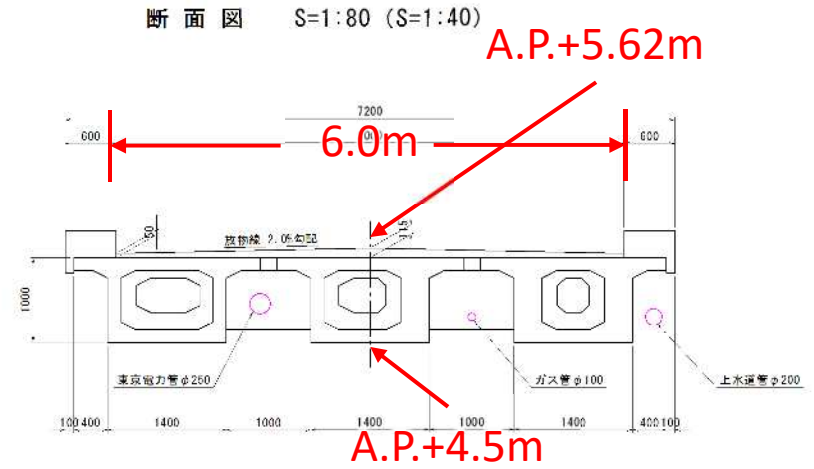


豊石橋図面(現況)

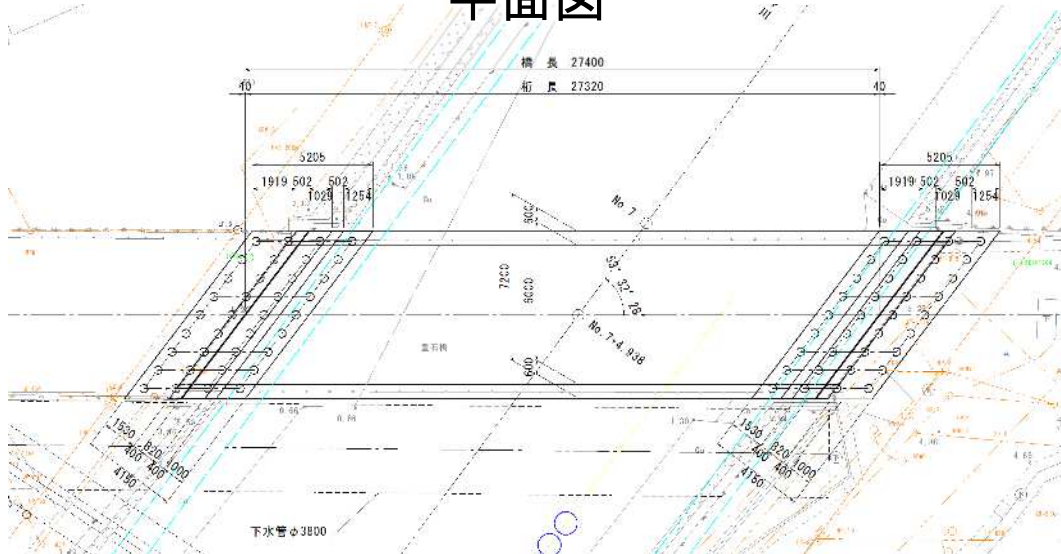
側面図



断面図



平面図

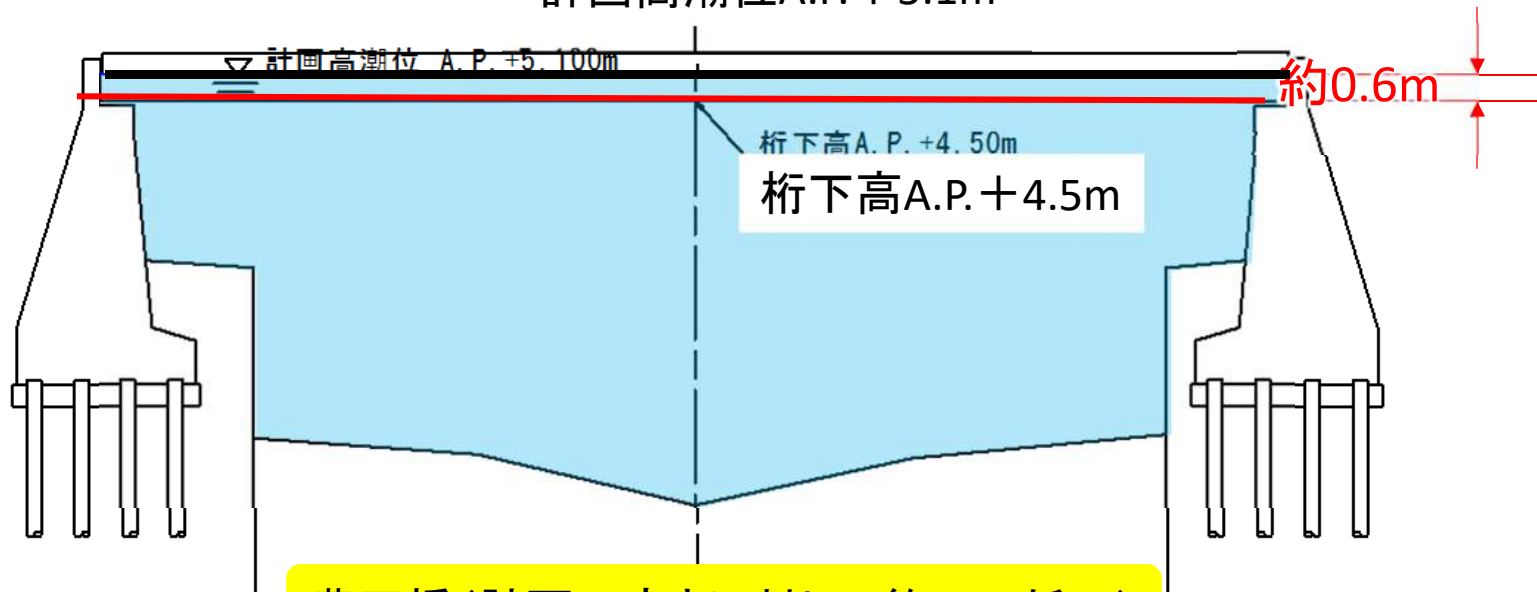


項目	諸元
完成年度	昭和39年度
橋の長さ	27.4m
道路の幅	6.0m
道路の高さ	A.P. +5.62m
桁下の高さ	A.P. +4.5m

豊石橋



計画高潮位A.P.+5.1m



▽ 計画高潮位 A.P.+5.100m

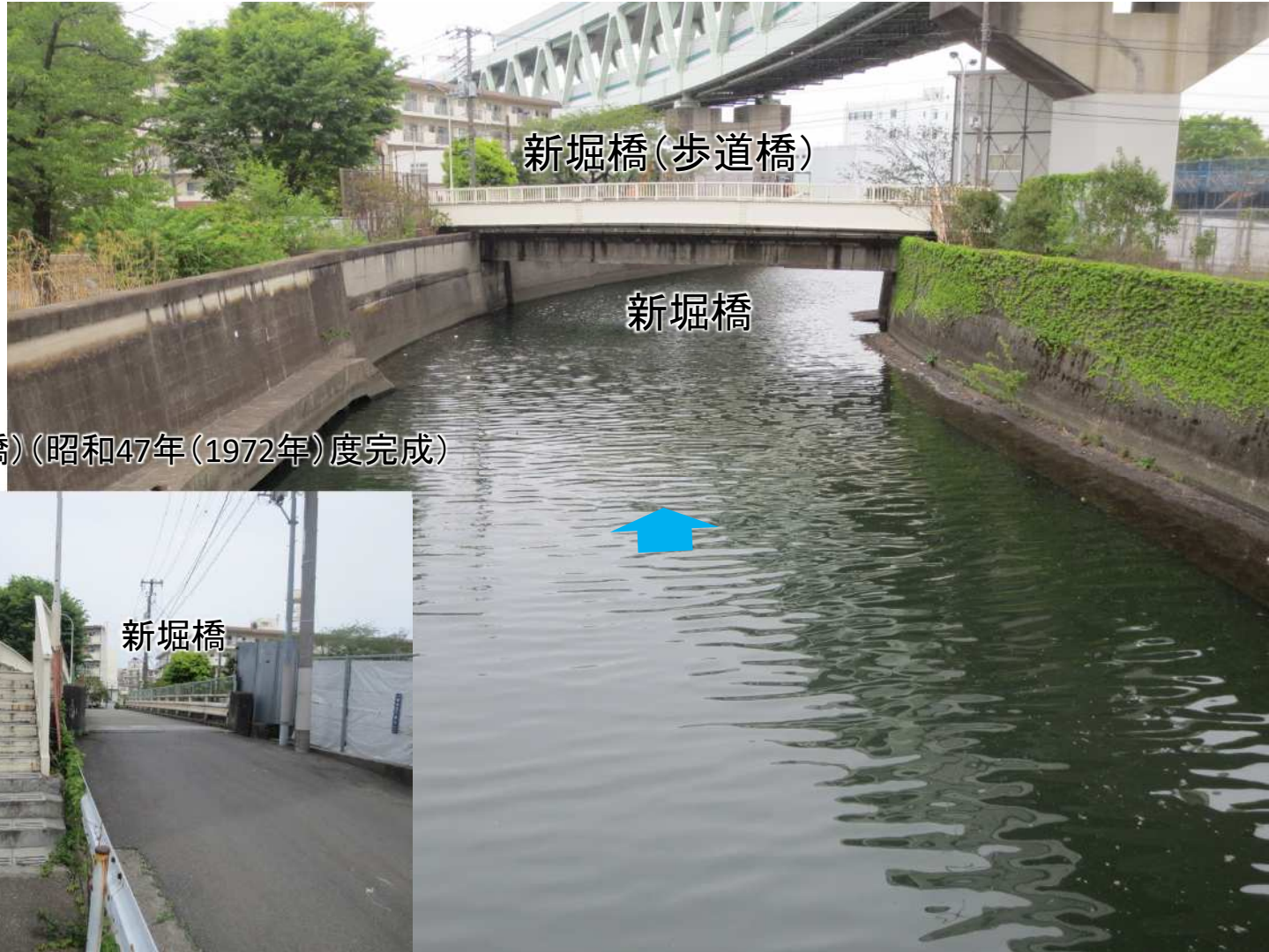
桁下高A.P.+4.50m

桁下高A.P.+4.5m

約0.6m

豊石橋(計画の高さに対して約0.6m低い)

新堀橋



新堀橋(歩道橋)

新堀橋

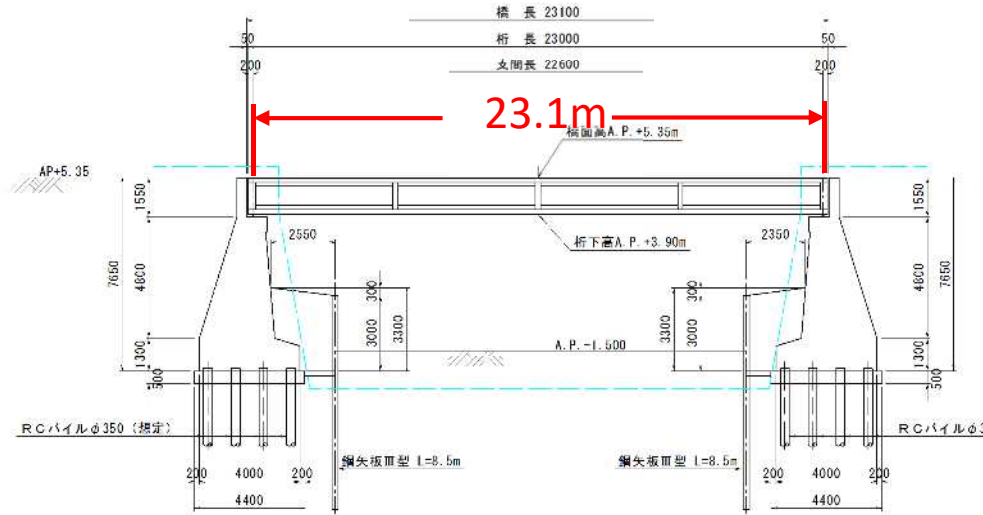
新堀橋(歩道橋)(昭和47年(1972年)度完成)



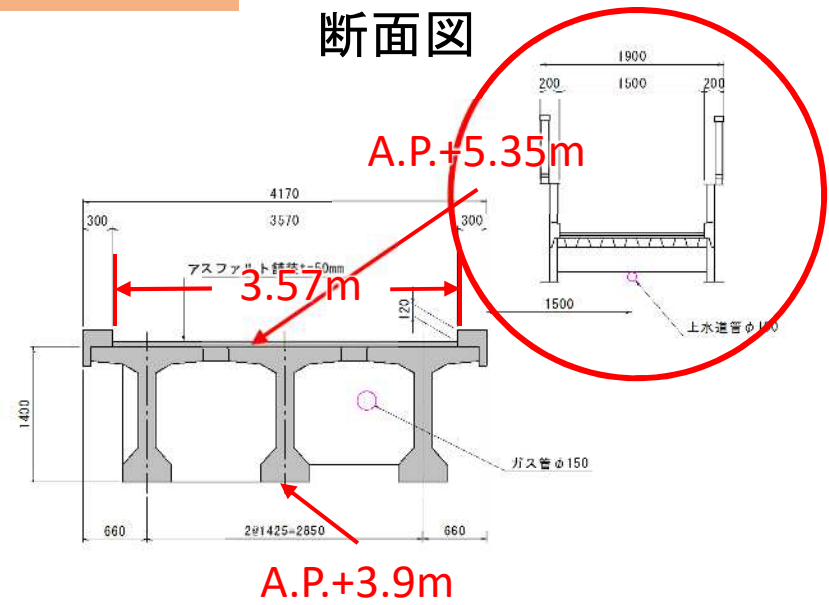
新堀橋

新堀橋図面(現況)

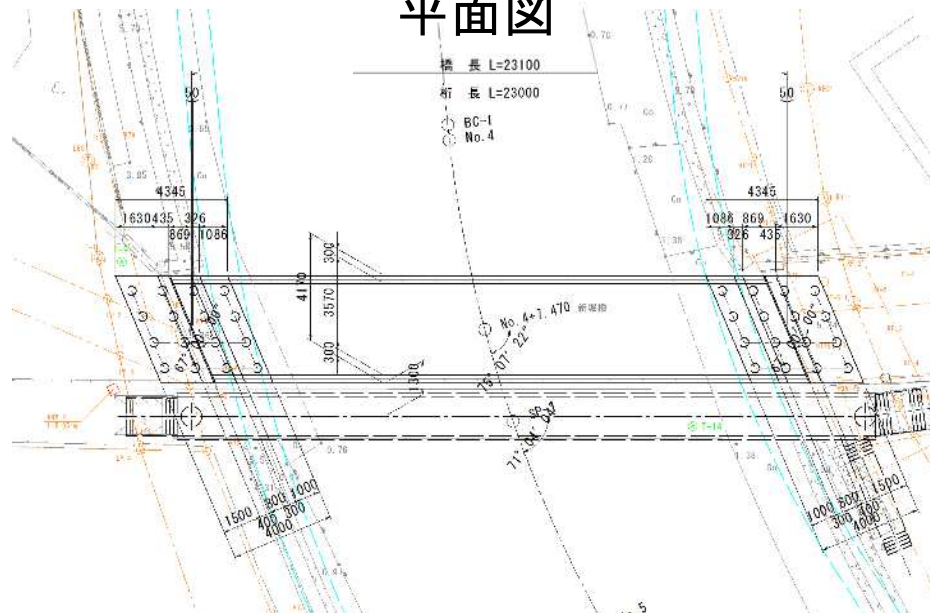
側面図



断面図

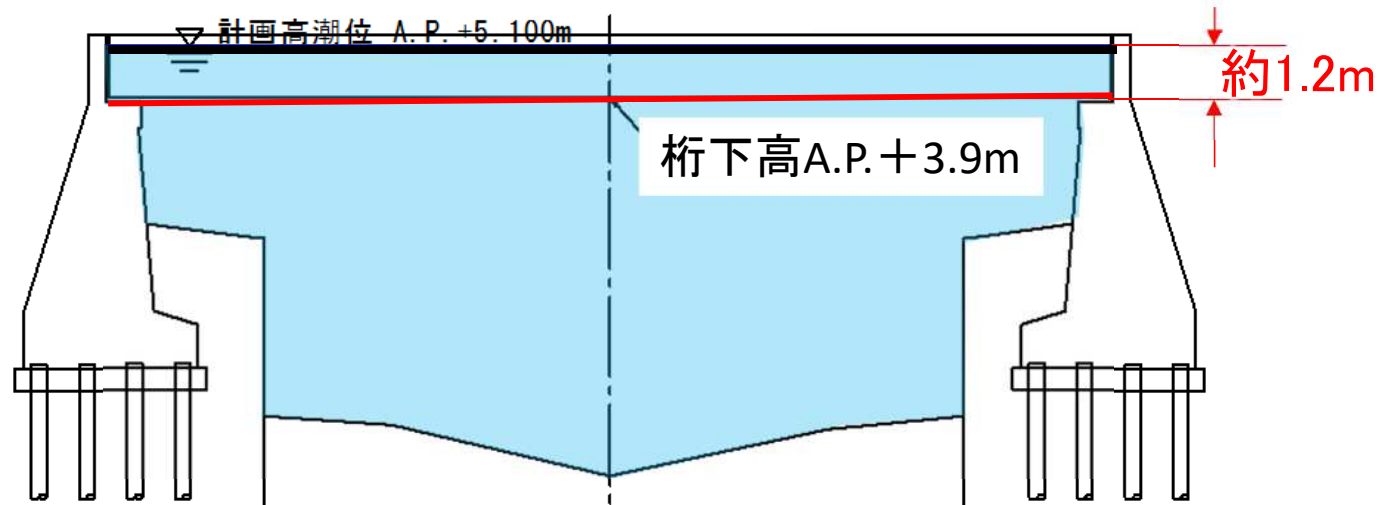


平面図



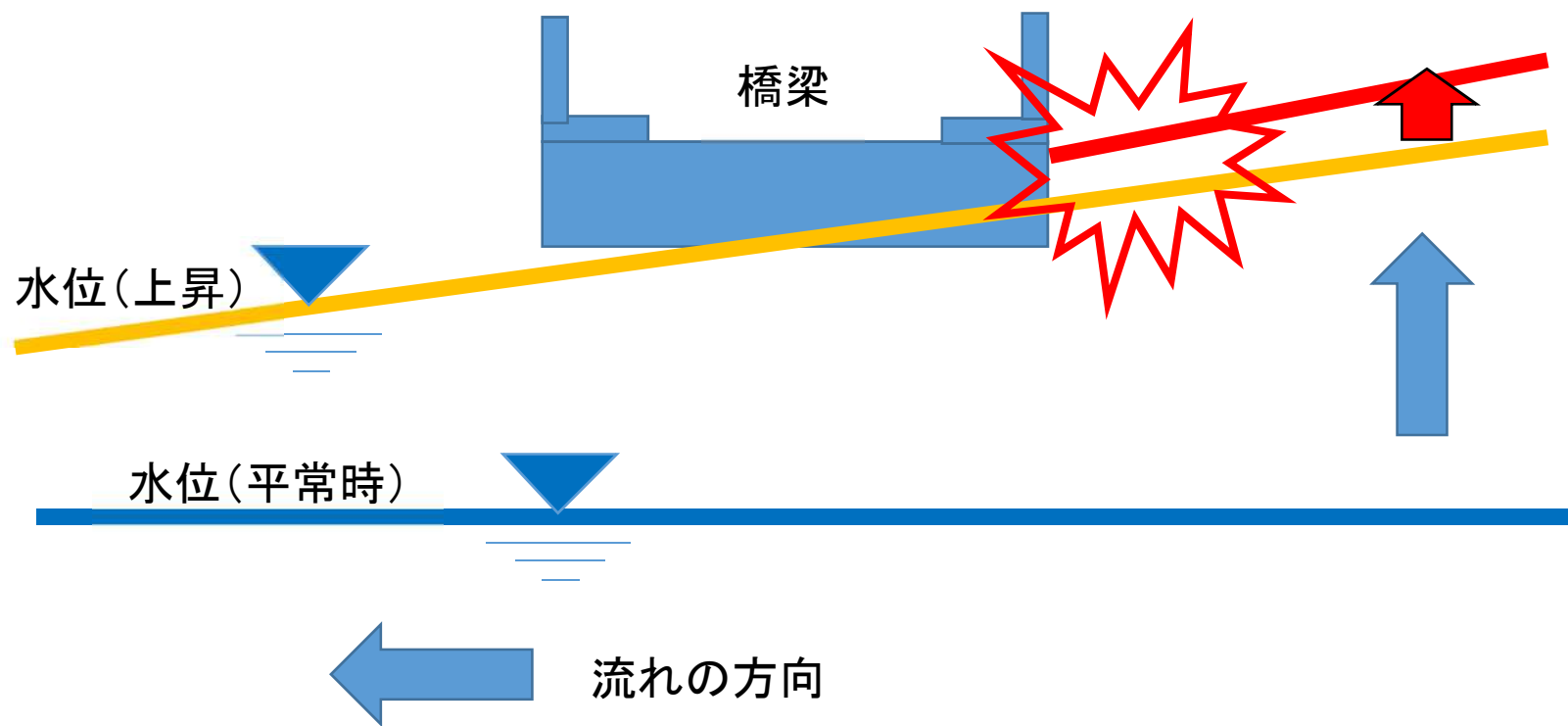
項目	諸元
完成年度	昭和39年度
橋の長さ	23.1m
道路の幅	3.57m
道路の高さ	A.P. +5.35m
桁下の高さ	A.P. +3.9m

新堀橋



新堀橋(計画の高さに対して約1.2m低い)

橋の下面の高さが低いため、水が流れにくくなり、洪水の危険が増す(下記イメージ)。





神田川(白鳥橋)における平成23年8月26日出水時の状況です。
白鳥橋の桁下が低く、洪水流下の阻害となりました。

3. 架替方針について

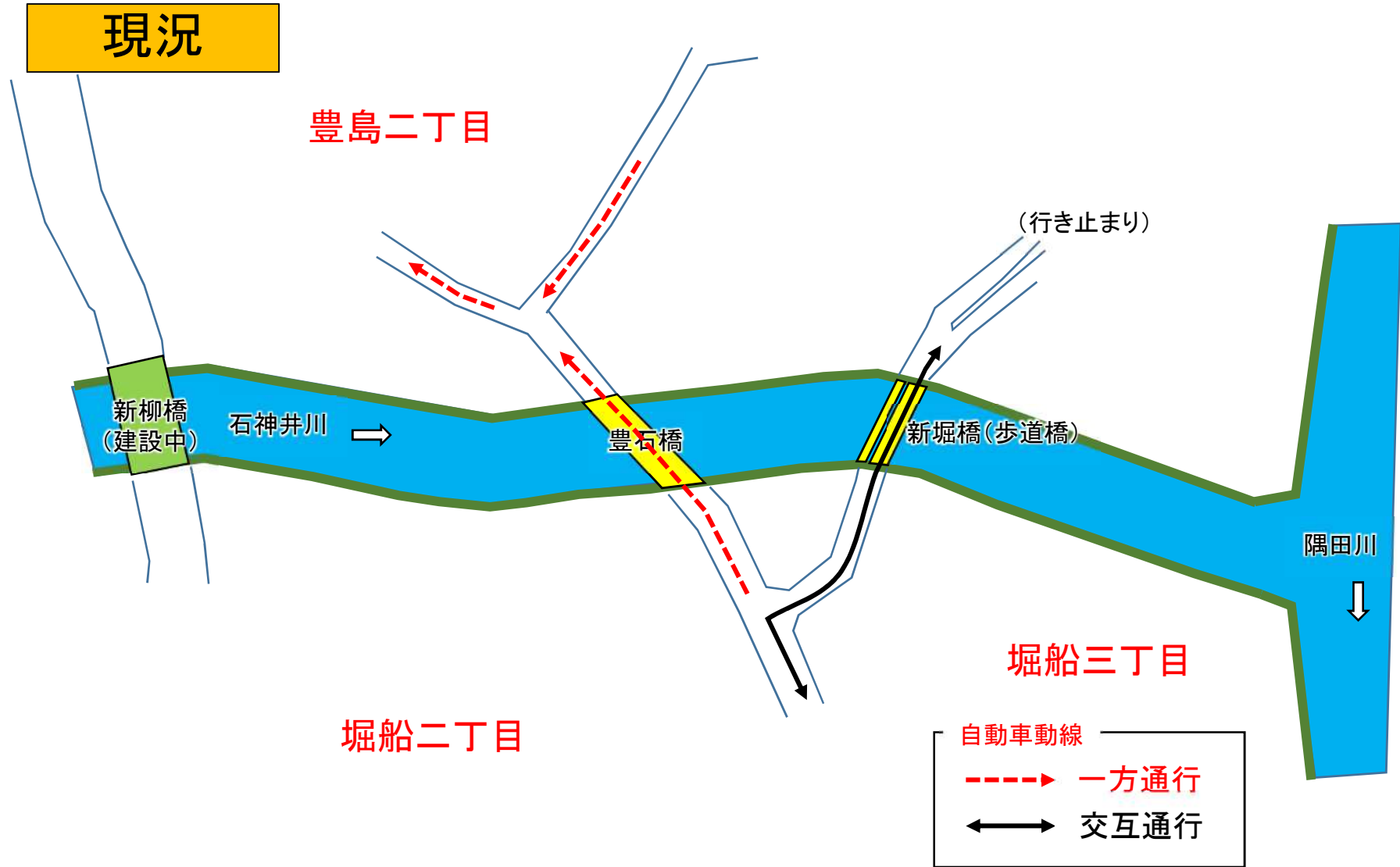
豊石橋と新堀橋（歩道橋含む）を統合し1橋とします。

撤去
新設

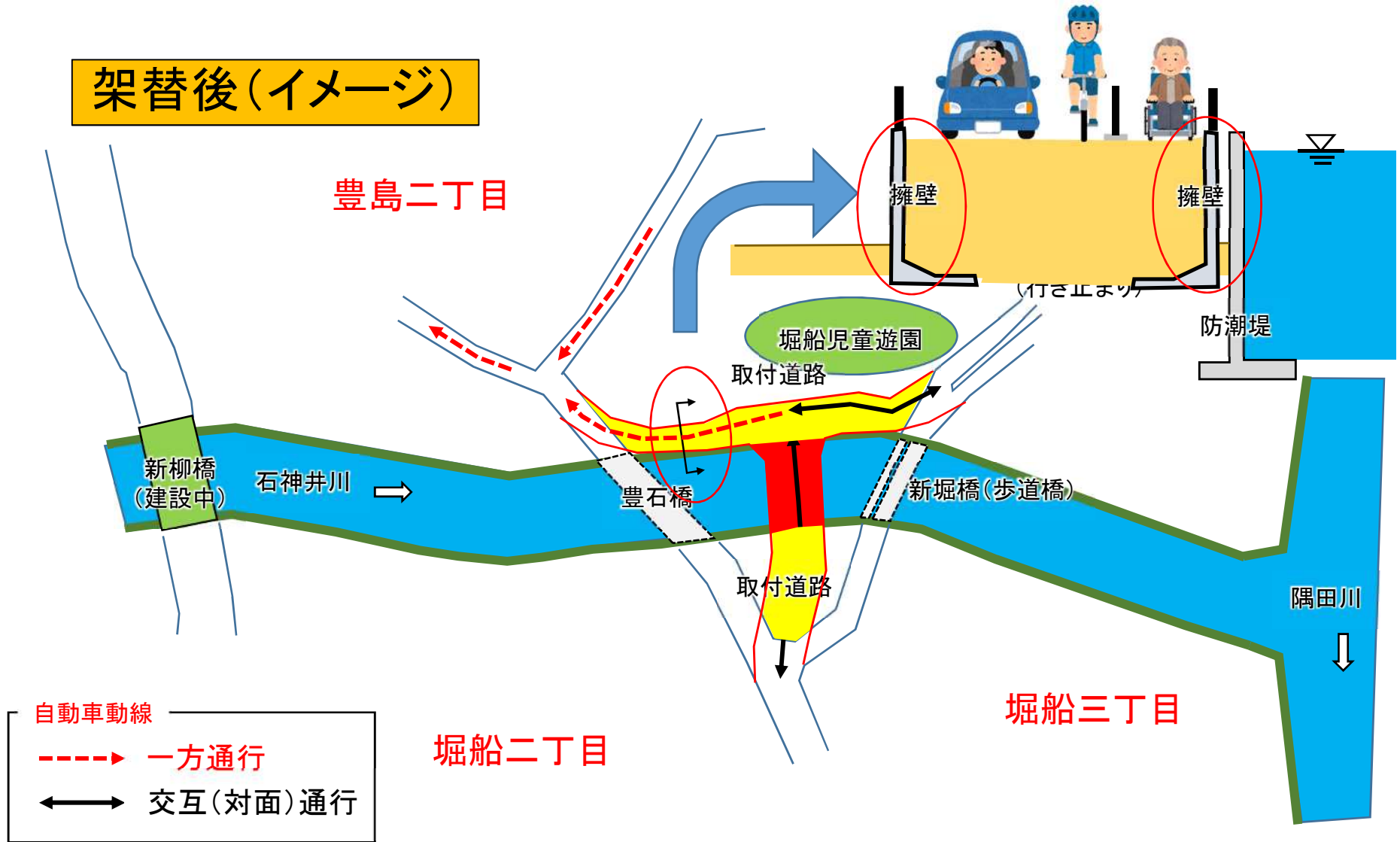


写真出典：Google earth

現況



架替後(イメージ)



※本図は架替後のイメージであり、詳細については今後設計を進めてまいります。



地図出典：Google map
 写真出典：Google earth

2橋を1橋に統合する理由

① 工期を短縮できる。

2橋を1橋に統合することで、完成までの期間を短くすることができます。

② コスト縮減できる。

2橋を1橋に統合することで、工事費を縮減できます。さらに完成後に必要となる維持管理費も縮減することができます。

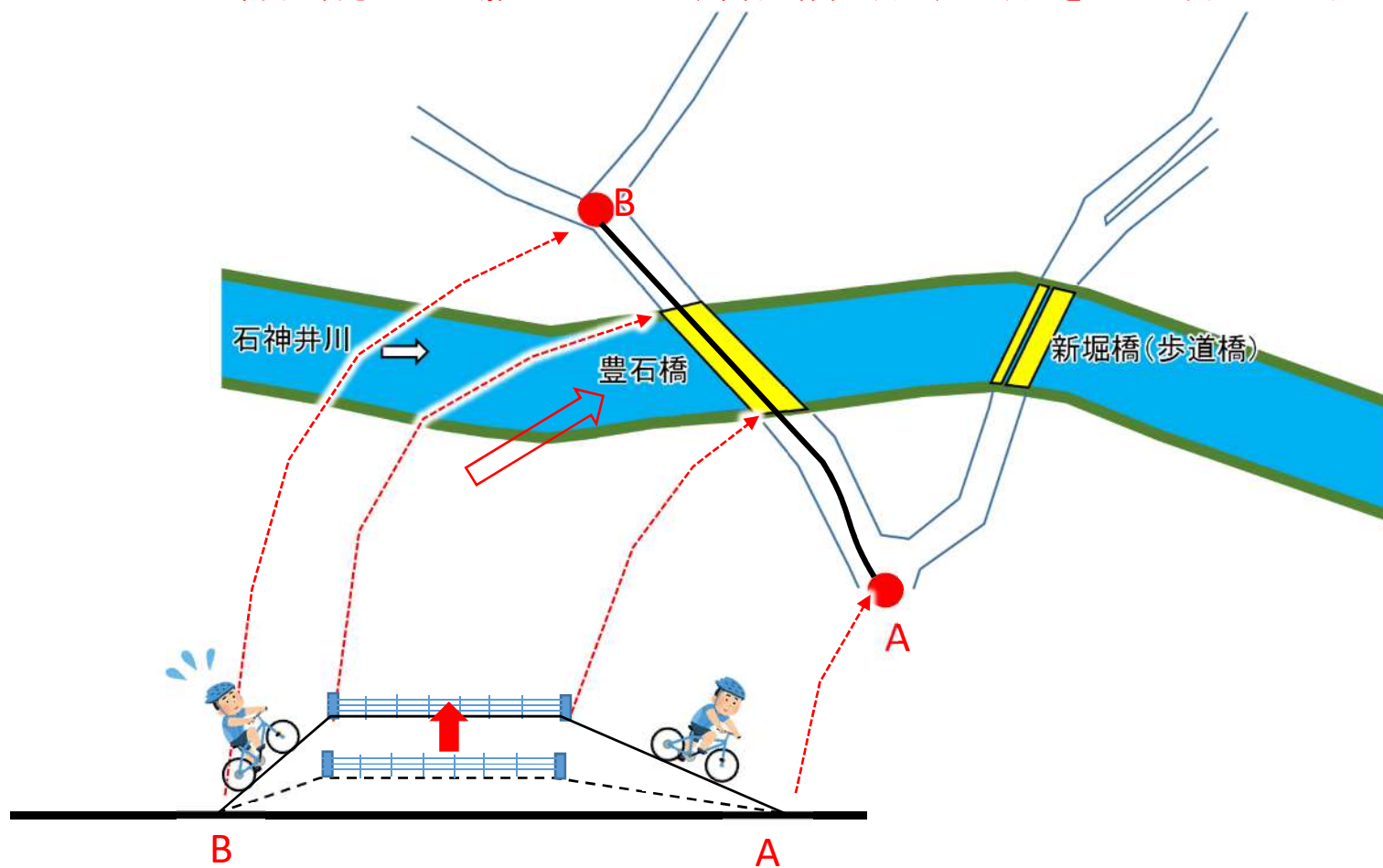
③ 安全性、利便性が向上する。

取付道路の設置により、周辺への影響をより小さくすることができます。

取付道路の設置により、豊島側の石神井川沿いの通行が可能となります。

現在の橋の位置で架替える場合の影響について

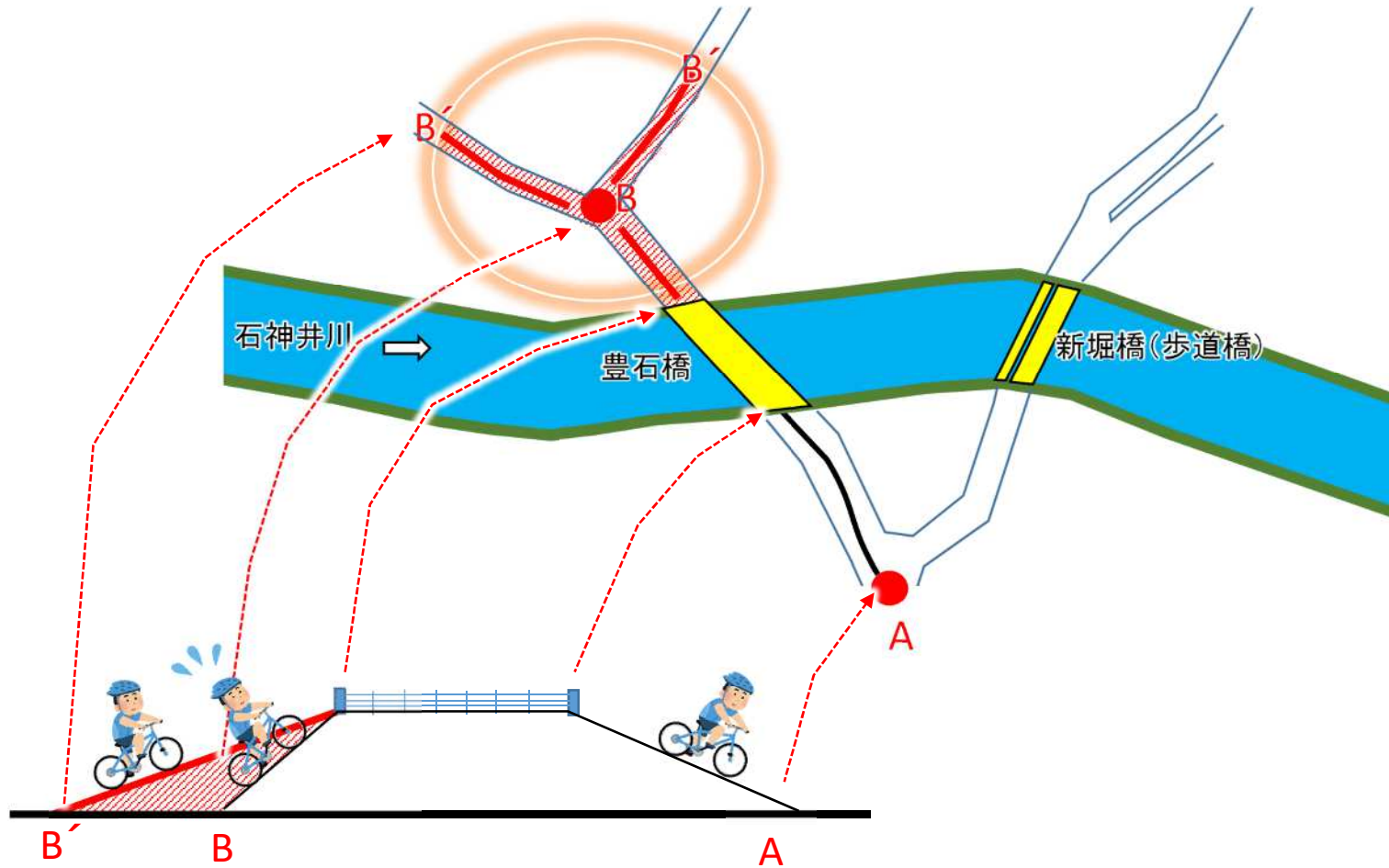
本図は皆さまにご理解いただくために、架替に伴うメリット、デメリットをイメージ図で示したものです。



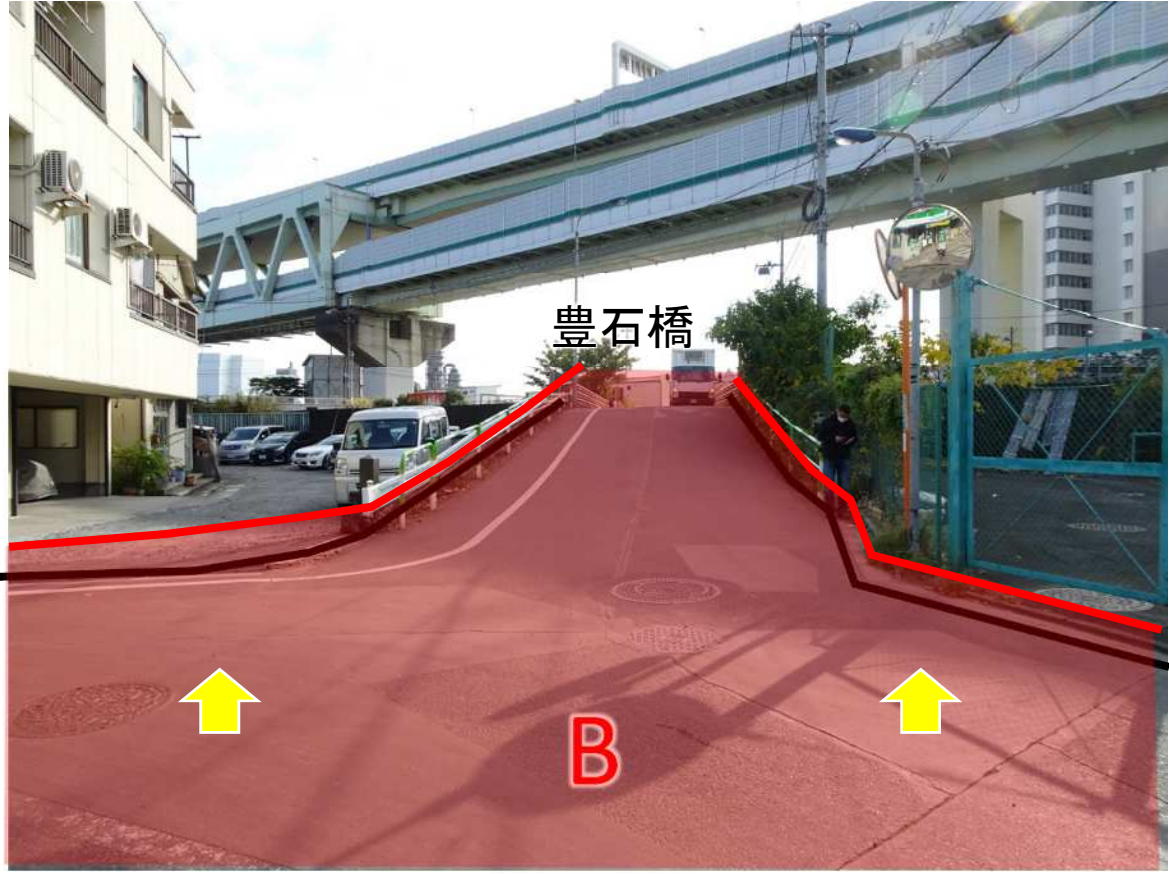
- 現橋と同じ位置で架替える場合、橋の高さが現況よりも高くなるので、道路勾配は現況より急になります。
- 勾配を緩くするためには、現状の道路地盤面を上げなければなりません。

現在の橋の位置で架替える場合の影響について

本図は皆さまにご理解いただくために、架替に伴うメリット、デメリットをイメージ図で示したものです。



- 現橋の道路の高さをあげると、宅地と道路に高低差が生じるため、擁壁の設置や擦り付けが必要となり、工事に伴う影響が大きくなります。



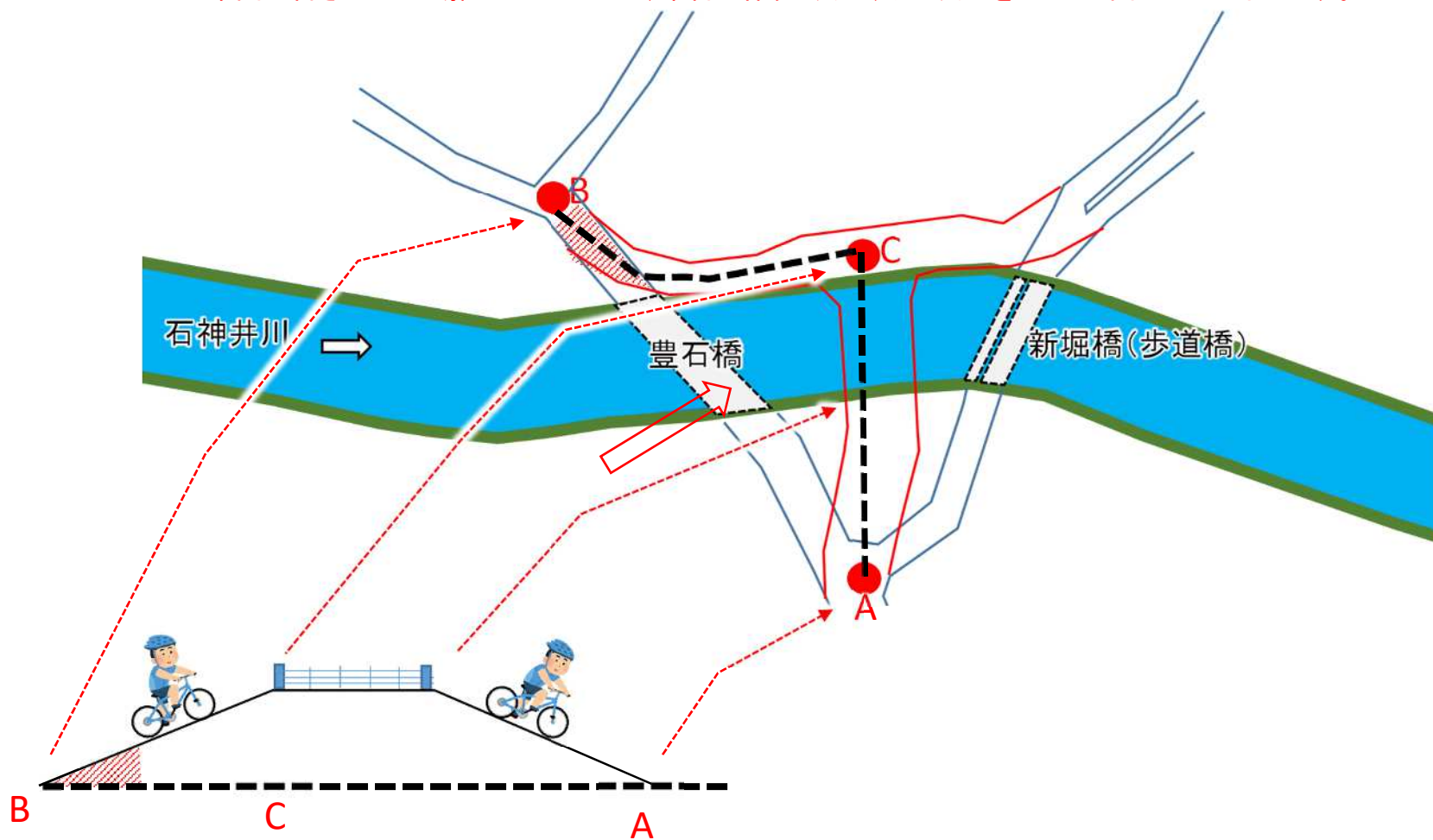
豊石橋

B



2橋を1橋に統合する場合の影響について

本図は皆さまにご理解いただくために、架替に伴うメリット、デメリットをイメージ図で示したものです。



- 取付道路(B～C間)で距離がとれるため、現況の道路面の高さを変更する範囲を小さくすることができます。

2橋を1橋に統合する理由

① 工期を短縮できる。

2橋を1橋に統合することで、完成までの期間を短くすることができます。

② 工事に要する費用や、維持管理費が縮減できる。

2橋を1橋に統合することで、工事費を縮減できます。さらに完成後に必要となる維持管理費も縮減することができます。

③ 安全性、利便性が向上する。

取付道路の設置により、周辺への影響をより小さくすることができます。

取付道路の設置により、豊島側の石神井川沿いの通行が可能となります。

- 撤去
- 新設



豊島側の石神井川沿いの通行(A⇔B)が可能となります※

※自動車は、B→A方向の通行はできません(一方通行区間を通過するため)

4. 今後の予定について

年 度	実施予定
令和5年度～8年度	関係機関協議、地質調査、測量調査、(予備)詳細設計、用地取得等
令和9年度以降	工事着手

- ① 先行工事の進捗状況等により工事着手が遅れる場合があります。
- ② 今年度は、地質調査、測量調査を実施します。現地作業を伴いますので、ご協力のほどよろしくお願いします。



ご清聴ありがとうございました。